

氏名	水 内 秀 次
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3365 号
学位授与の日付	平成 11 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Preferential Salivary-type Hypoamylasemia in Obese Children (小児肥満における低S型アミラーゼ血症について)
論文審査委員	教授 清野 佳紀 教授 辻 孝夫 教授 青山 英康

学位論文内容の要旨

小児の肥満における減量前後の血清総アミラーゼ (T-Amy) 活性、S 型アミラーゼ (S-Amy) 活性、P 型アミラーゼ (P-Amy) 活性の変動を調べる目的で平均 10.1 才の男子 86 名、女子 67 名について血清アミラーゼ活性を測定した。T-Amy 活性はベーリンガー・マンハイム・山之内 (株) の α -アミラーゼ EPS キットを用いて測定し、P-Amy 活性は S-Amy 活性を特異的に阻害するモノクロナル抗体を用いた同社のアイソアミラーゼ EPS キットを用いて測定した。S-Amy 活性は T-Amy から P-Amy 活性を差し引いて求めた。肥満度 50% 以上の肥満の子供では T-Amy、P-Amy、S-Amy 活性の低下が認められた。P-Amy および S-Amy 活性は肥満度と負の相関を示し、相関係数は S-Amy 活性のほうが P-Amy 活性に比べて僅かに大きかった。体重減量前後での肥満度の変化とアミラーゼ活性の変化を検討すると肥満度の低下に伴い S-Amy 活性が増加し、両者の間にのみ負の相関が認められた。以上より、肥満児の S-Amy 活性は低く、体重の減少とともに高値になることが明らかとなった。

論文審査結果の要旨

本研究は小児の肥満における減量前後の血清総アミラーゼ (T-Amy) 活性、S 型アミラーゼ (S-Amy) 活性、P 型アミラーゼ (P-Amy) 活性の変動を調べる目的で行われ、平均 10.1 才の男子 86 名、女子 67 名について血清アミラーゼ活性を測定した。肥満度 50% 以上の肥満の子供では T-Amy、P-Amy、S-Amy 活性の低下が認められた。P-Amy および S-Amy 活性は肥満度との負の相関を示し、相関係数は S-Amy 活性のほうが P-Amy 活性に比べて僅かに大きかった。体重減量前後での肥満度の変化とアミラーゼ活性の変化を検討すると肥満度の低下に伴い S-Amy 活性が増加し、両者の間にのみ負の相関が認められた。以上より、肥満児の S-Amy 活性は低く、体重の減少とともに高値になることが明らかとなり、本研究は価値ある業績であると認められる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。